

## 科学技術振興調整費プログラム 「女性研究者支援モデル育成」について

文部科学省基盤政策課

我が国の科学技術の将来や国際競争力の維持・強化は、「人」の力如何にかかっており、将来の科学技術を支える人材を質・量ともに確保していくためには、女性研究者をはじめとする多様な研究者がその能力を最大限発揮し、活躍するための環境を整えていくことが重要である。

しかしながら、我が国は、研究者に占める女性の割合が、欧米諸国と比べ低い状況にあり、その最も大きな理由として、研究と出産・育児の両立が難しいことが指摘されているところである。

このため、文部科学省では、平成十八年度から、科学技術振興調整費による新規課題「女性研究者支援モデル育成」を実施している。これは、大学等の研究機関が行う、研究と出産・育児との両立に関する支援のモデルとなる取組を支援するものであり、現在、十の大学において取組が進められているところである。

### 【応募・採択状況】

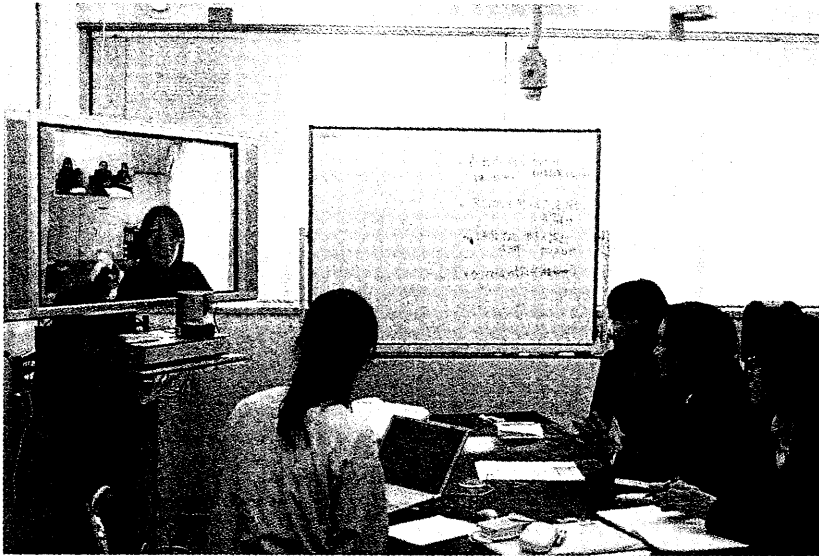
本事業について、実施機関を公募したところ、平成十八年度は、大学、独立行政法人等から全三十六件の応募があり、審査の結果、北海道大学、東北大学、お茶の水女子大学、東京農工大学、日本女子大学、東京女子医科大学、早稲田大学、京都大学、奈良女子大学及び熊本大学の計十件を採択したところである。

### 【取組の例】

本稿においては、本事業における各大学の取組のうち、以下の三大学の事例を取り上げて紹介する。

#### ①お茶の水女子大学「女性研究者に適した雇用環境モデルの構築」

子育て中の女性研究者が優れた研究成果を挙げるよう様々な支援活動を実施し、その有効性を検証する取組である。即ち心置きなく子育てができる優れた環境を実現し、同時にそれが可能となるよう意識を変革する取組である。キーワードは「勤務時間9時から5時の徹底化」である。子育て中の研究者（男女を問わず）が優れた研究成果を挙げるには、朝夕子供を保育所に送迎することを考えると、仕事は9時から5時の間に完了させなければならない。この仕事と家庭を両立させる二十一世紀型ライフスタイルを、全学を挙げて実施する計画である。課題はどのように制度を設計し環境を整備し意識を変革すれば良いかである。昨年五月に設置したワーキンググループ（WG）が聞き取り調査と議論を重ねて今年一月に「9時-5時WG答申」をまとめた。この青写真が実現すれば、実施中の環境整備に魂が入ることになる。子育て中の女性研究者の表情が最近明るくなったのは、成果が出始めたからだろうか。



日本女子大学 TV 会議研究打ち合わせ

## ②日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」

「出産・育児と研究活動の両立支援」および「女性研究者の活躍の場の拡大」に向けて、①ユビキタスリサーチ支援、②ヒューマンリソース支援、③次世代女性研究者の育成などの調査・企画を三つの柱として進めている。ユビキタスリサーチ支援部門では、「いつでもどこにいても研究活動を継続する」という新しいユビキタスリサーチの概念に基づいて、支援を受ける育児中の対象者「U-リサーチャー」の研究者像の新しいモデル提示を目指している。本年度は、まずU-リサーチャーの公募（現在八名）を行い、これを支援する「研究助手」を配置し、研究活動を活性化させる試みを行った。さらに、ユビキタスなシステム環境の整備として、研究助手への指示、ディスカッション、研究室ゼミに参加するためのテレビ会議システムを三組導入するとともに実験装置を遠隔的に操作できるモデルを構築した。

## ③東京女子医科大学「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」

子育て中の女性医師に研究の推進、学会発表、論文発表の機会を与え、育児との両立によって医学研究を遂行することを可能とするシステムの構築を目指している。女性医学研究者の勤務環境整備のひとつとしてワークシェア、フレックス制による研究支援を導入した。ワークシェアは、研究者二名が一組になる。一人が原則一週間に四日勤務として医学研究業務に携わる。フレックス制は、週二十五時間勤務として三名を公募した。研究者は委員会の審査により選考され、給与と研究費の支給を受け、一ヶ月に一回の研究発表会があり、研究指導も受けることができる。本課題により、勤務形態の多様性を大学内に導入すること、計画的・効率的な研究を実施すること、研究と育児の両立による子どもの心身の健全育成を図ること、指導的な立場となる優れた女性医学研究者を育てること、などが達成される。

(参考) 文部科学省ホームページ  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/jinzai/koubo/06060127/002.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/koubo/06060127/002.htm)